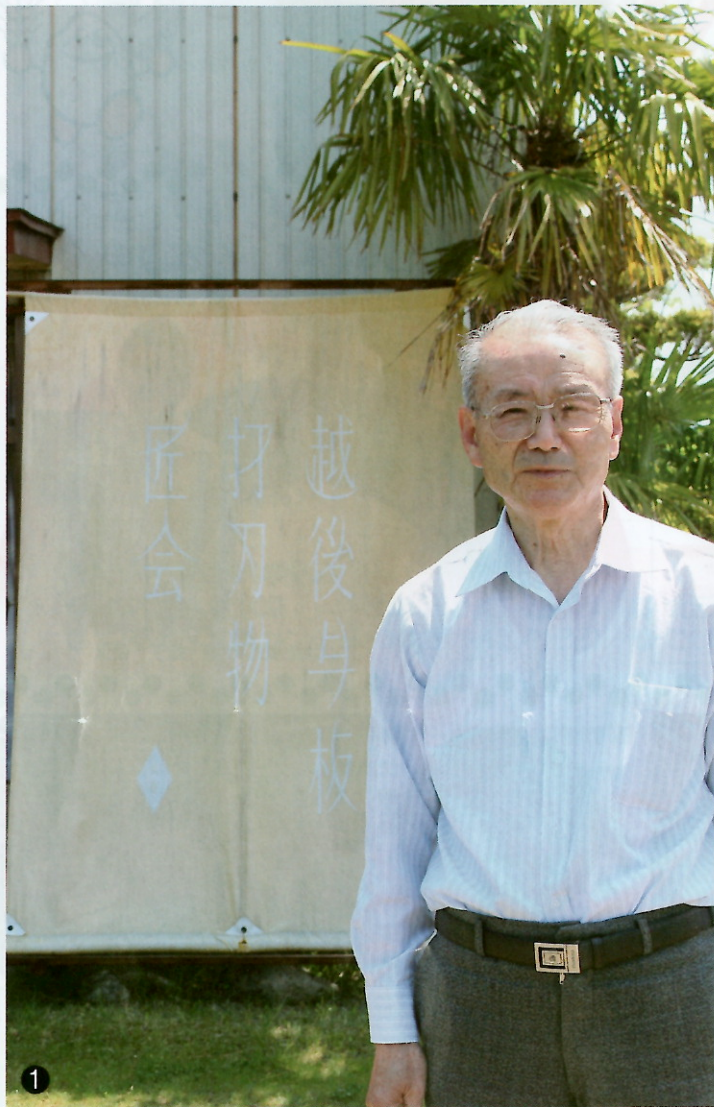


長岡市与板町与板(中部地区)

く すみ せい いち

久住 誠一さん(81) 越後与板打刃物匠会 代表



1. 『越後与板打刃物匠会』と染め抜かれた大暖簾^{のれん}。与板の鍛冶屋の軒先にはためく。
2. 暖簾と統一デザインの名刺。長岡造形大学の福田毅先生が手掛けた。
3. 多くの宮大工に愛される『陣太鼓』ブランド。最近新しい試みとして、女性向けの工具ブランド『TANTON』をリリースした。
<http://yoitahamono.com/tanton/TANTON.html>

打刃物と歩んだ半生

23歳で三条の丁稚奉公^{ていぢほうこう}先から戻り、与板で打刃物の卸商を興した久住誠一さん。以来、半世紀を超えて、その魅力を全国に発信し続けています。

与板打刃物の代表的な製品はノミとカンナ。国宝を修繕する宮大工が採用するほど、優れた品質を誇っています。しかし、大工の必需品だったノミ、カンナは、建築様式の移り変わりとともに需要が激減してしまっただけです。それに伴い、300軒を数えた与板の鍛冶屋も、いまや30軒以下に。「危機感を持った」という久住さんらは、与板打刃物ブランドを強化するため、平成23年に『越後与板打刃物匠会』を立ち上げました。

世界一を目指して

「与板の品質を認めてもらう努力が必要ですね。大工道具をどれだけ使ってもらうかにかかっています」と、真剣な面持ちで語る久住さん。匠会結成後は、東京で大工道具の体験会を開いたり、東京ビッグサイトなどの大規模な国際見本市に出展したりと奔走して来ましたが、そうした活動によって、首都圏にファンもつき始めています。「体験会に一度来て気に入っていただき、次の体験会を楽しみにして下さる方が出てきました。そういう人がいるまでになったことが感謝ですね」。

次の目標は「世界一！」と宣言した久住さん。卸商・久住の「陣太鼓」ブランドが、世界の作業場に並ぶ日が目に浮かぶようです。